

① ガバナー推薦枠による大学入学の推進をはかる。

インターアクトは高校3年になると、受験のために活動をしなくなる。推薦枠がとれれば、引き続き活動に力を入れていくことができるのではないか。

② 2006～07年度に引き続き、インターアクトクラブの結成は、ロータリークラブが地域社会で実施できる活動の中で大きい活動であることのご理解をいただき、未提唱ロータリークラブに対しては、『インターアクト委員会の設置のお願い』をし、地区内インターアクトクラブのさらなる拡大に努める。

③ 新たに結成されたインターアクトクラブが順調に活動できるよう、CDまたはビデオで意義の高揚をはかる。

④ 提唱クラブ、またインターアクトクラブ各顧問の先生方に協力をお願いし、インターアクトクラブ部員の確保および勧誘のあり方を検討したい。

⑤ 新世代委員会の連携をさらに強固なものにし、インターからローター、ローターからロータリアンへとつながる必然的な道筋をつくっていききたい。

以上で、活動方針の報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。



大矢会員報告

4月20日にパリに行ってまいりました。

私が所属している日本美術院は、77年前に横山大観先生以下、ローマで院展の同人展を開いております。その当時はいまの時代とだいぶ違っており、岡倉天心以来の日本美術院の伝統を海外に示そうじゃないかということで、大倉喜八郎が資金の提供者になり、横山大観を団長として日本の文化に対する高揚を極めたということでもあります。今回は77年ぶりに、現在の理事長

の平山郁夫先生を中心として、パリの凱旋門のすぐ近くの「三越エトワール」で展覧会を開催し、6月23日までやっております。

絵を運ぶということになると、保険やいろんな面でお金がかかるわけで、スポンサーとして三井住友銀行会長、東芝副社長、鹿島建設副社長、全日空副社長も一緒においでいただいて、会を盛り上げていただきました。ジャーナリストが200人くらい集まり、NHKの「おはよう日本」でも、レセプションや開会の模様が放映されたようです。日本でいえば文部省といったところの副大臣や各国の大使、公使もお見えになっていました。

日本画については向こうの人たちも、以前からいろんな折に認識はしていたのですが、実際に屏風など大きな作品を見たときに、材料がどういうものであるのか、とても興味があったようです。油絵の具の場合は、顔料は亜麻仁油とかポピー油で煉って、それをチューブに詰めて、描くときはチューブから出して描く。ただ、最近思いますのに、偏見があるかもしれませんが、油絵の具で描いている方は、日本画の方と比べると10歳から20歳短命なんですね。油絵の具で描くときには、テレピン油などで溶かして描くので、しょっちゅうやっていると、シンナー中毒のようになるのではないかと。その点、案外長命なのは、日本画と彫刻の方ですね。彫刻は手を使うので、長命なのかなという気がします。90歳以上の彫刻家はたくさんいます。前に日本美術院に所属していた平櫛田中（ひらくしてんちゅう）という先生は、103歳のときに自分の庭に材木をいっぱい買った。家の者がこんなにどうするのと聞いたら、これから先30年分あると答えたそうです。実際は107歳までお元気で、現役で仕事をされた。たいしたものです。

また、105歳まで描かれた小倉遊亀（おぐらゆき）という女性の先生がいらっしゃいます。最後に院展に出された作品はぼたんを描かれていて、下から水分を吸い上げて、いまにも咲きそうな感じがする。あれは、小倉先生がもっている生命感だと思います。この方は、小倉鉄樹という禅者、哲学者と結婚された。鉄樹